治癒するまで治癒を
主婦と病院との話合い

主婦会では十三日午後二時三十分から高砂町の港友クラブで病院側との懇談会を行った。主婦会十八名、病院側は事務課長や本院、分院などの事務担当者や看護婦さんなど二十七名、それに組合から本部厚生部長と各支部の厚生部が出席した。

保険證は有價證券

健保組合ではいま大きな赤字をかかえているといわれ、このためにも病院側と利用する側とがこの病院経営の機能を果して行くうえにいろいろな問題点、まさつ点を出しあつてそのうえに立つてこんどの調整油としての目的を達することが出来ればと話し合われた。

まづ最初はみんながよく知つておられると思つて案外知らない人もある保険証、治療券、転治書、仮証明についての用途や性格を病院の方から説明があり、これについて主婦の方からいろいろと質問が出たり要望が出た。

例えば

○保険証は病院に最初さしだすがすぐその場で返してもらうのかそれとも預かられるのか、分院などではまちまちのところがあるから、はつきりして下さい。

○一つのところにかかつて、急病で分院にかかる場合は仮証明なしにかかられるか。

○一つの病気について何年という制限があるのか。

○治療券をなくしたら病院へ行かないという子供がいる。そのまま治療をやめることがあるのでそういうときは病院でどうしますか。

などと取扱いについていろんな面にわたり懇談が行われた。

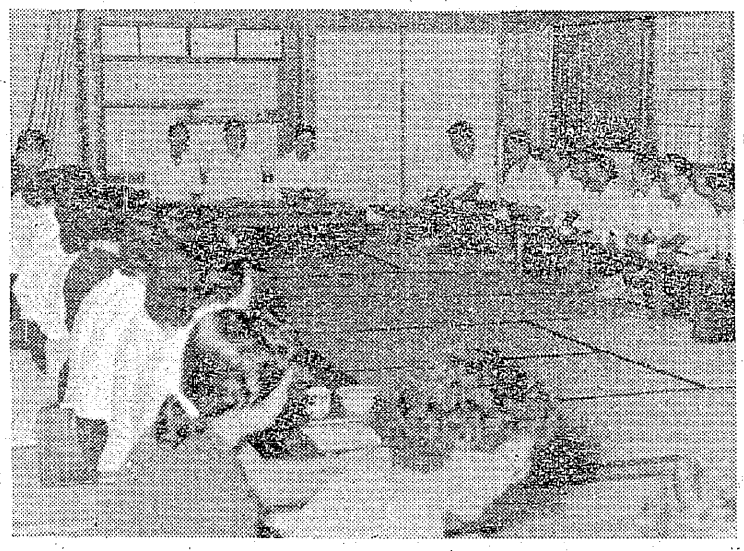
附添婦さんはもつと親切に

このあと診察時間の問題や往診、時間外、昼休み、往診区域などの問題がでた。

附添婦の問題では、総体的に附添婦に対する病院側の教育が不足しているのではないか、その理由として病院附添婦と家族附添婦とのマサツを考えてみると、これは病院側の附添婦に対する指導に欠陥があるのではないかということがいわれ、この指導をこん後強力に行うということになつた。

また看護婦さんからの要望として治療を一回受けて長期間治療に来なく、そしてまた一回受けにくるというような実態が多いのでこういうことをしては治療の効果がないから連続して治癒になるまできて頂きたいというのや、小児科にこられる場合は新聞紙とおしめは余分にもつてきてもらいたい、また便器を洗して（検便のため）そのまま帰られるお母さんたちがおられるが、家庭の延長と考えて、みんなにいやな思いをしないようにいたしましようとの要望などもあつた。

このほかいろんな問題がでて懇談が行われたが、お互いにこんごは努力することが誓われ有意義な懇談会になつた。



子供を救助
台風前日の善行

十二号台風は九州一帯を襲つて北上したが、九号被害以上の被害を各地にあたえて消えさつた。この十二号台風の中で尊い人命救助を行つたこれは美しい話ー

九月十日は十二号台風の前日でもあり、突風が突然吹いてきたりして風も相当強かつた。大平社宅で仕繰夫村上庄一さんの二男均ちゃん（三才）は午前八時ごろ社宅の池の附近で遊んでいたが、突然強風におおられて池に落ち、まだおよげる年令でもないので溺死するところであつた。

ちようどこのとき通よく通りかかつた桑野一さん（内機）はこれをみて瞬間的に着物を着たまま池にとびこみ、おかげで均ちゃんは一命をとりとめることができた。

桑野さんは温厚な人物として地域でも知られ、地域分会でも真面目に協力されており、この話を聞いた地域の人たちは桑野さんの善行を表彰しようと語つていたが、地域分会として近く表彰することに決定した。

資金カンパ等で
大牟田からも〝うたごえ〟へ

秋の気配が訪れ、今年もまた〝うたごえ〟のシーズンになつた。「日本のうたごえ」の前奏曲として一九五六年「九州のうたごえ」が九月二十三日大分市で開かれる。大会のプログラムを開いてみると地域別のうたごえ―大分、福岡、大牟田、鹿児島、その他十余の都市農村のうたごえ。

産業別のうたごえ

沖ナワのうたごえ

その他一朝鮮の民族舞踊、バレー井上頼豊氏のチエロ、創作発表会（大牟田より三曲）前夜祭、後夜祭。

となかなか多彩な祭典の内容である。

さて、大牟田では、市内の地域、職場、うたう会代表が集つて、九州のうたごえ参加の討議をした。この会議で五名の大牟田地区実行委員を選出し、中山大地評事務局次長を中心に、広く市内へのアツピールと参加資金カンパの運動を行うことが決定した。

さきの中央合唱団公演資助運動のときから大牟田のうたごえの組織を作ろうという空気が生れ、市内約四十（推定）のうたう会の合同体である大牟田合唱連絡協議会がこんどの九州のうたごえ参加のための運動をきつかけとして十月の文化祭頃までに誕生するものと見られており、うたごえの交流、指導者の養成と研究、合唱音楽会の催し、センター合唱団の設立、うたごえ参加の自立資金の蓄積など大牟田のうたごえは質、量共に一段と飛躍したものになると期待されている。

活潑になつた歌ごえ運動
（於線ガ丘）

大谷で敬老会
七十才以上が卅六名

九月十五日の〝としよりの日〟にさきがけて大谷主婦会では十三日荒尾市桜町の共楽座に七十才以上の老人を招待して、一日楽しい慰安の敬老会を催した。

荒尾市関係ではこの大谷での敬老会が一番最初だそうで、いまこの地区には七十才以上の老人は三十六名という多数さで、このうち八十才以上が四名、最高齢者は八十九才の寺田ミジさんとなつていて、まつたく長寿の地域である。共楽座にきたおじいさん、おばあさんは主婦会の人たちの手によつて胸にバラの造花を飾られ、みんな嬉しそうに顔をくずしていた。

買物コンクールなど
市で栄養改善運動

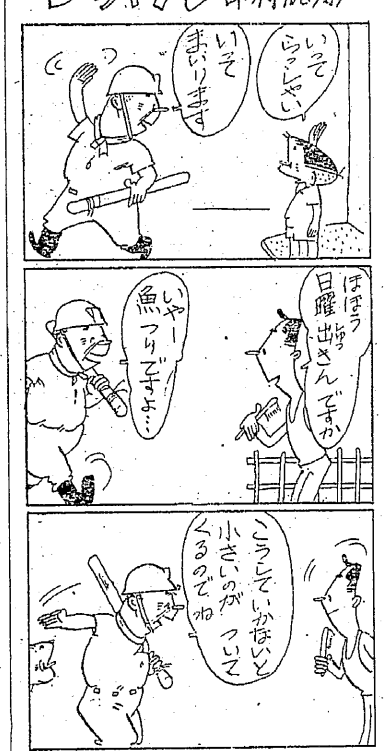
大牟田市では栄養士会の協賛で九月二十一日から二十九日まで「栄養改善普及運動」を実施することになつている。これは栄養や食生活改善に対する関心がいまおうすく、永い間の習慣や嗜好などに支配された不合理な食生活がくり返されている現状なので、この習慣をうち破り食生活の合理化をきするため栄養知識の啓蒙をはかり栄養改善の実践意欲をよび起すための運動で、主な行事はつぎのようなものがある。

△買物コンクール

廿四日（東新町バス停）廿五日（元五ツ角バス停）廿六日（三川町五丁目バス停）で毎日午前十一時から午後四時まで。対象は大牟田市民で、家族の満年令と職業、当日夕食の主食名と分量、同じく料理名、同じく主材料を持参すること。（品名数量、単価、金額を明記、自家生産品は市価で計算する）なお表彰は廿九日、参加者全員に参加賞、一、二、三等までに賞品および賞状を与える。

△講演会と座談会

廿九日午後一時、場所保健所講堂、講師は県栄養係長、日本栄養士会九州地区理事の渡辺晃己先生



讀書の秋くる
まず讀む癖を作ろう

あついあついといつていた夏もすぎて、秋は急テンポにやつてきた夜ともなれば虫の音が耳やかましいほどである。秋は読書のシーズンともいわれるが、まさにその通り各支部の図書館利用も、あのうだるような暑さを峠としてだんだん利用数が増え、最近では秋の夜たがを読書でもしてという傾向から急激に増えてきた。

また今年の特異なケースとして各地域や職場で学習活動が活ばつになつてきたのを反映して、こういう専門書の利用者もぼつぼつみられるうれしい便りもある。各支部図書館ともさすがに一番利用度の多いのは文学書である。暑間の疲れきつた体や頭を小説でも読んでときほぐそうというわけであろう。ついで主婦たちが利用する料理・和洋裁なども読まれている。

利用が増えれば書物の損傷もひどく、四山図書館などではこのため図書館の休みを利用して、この図書修理に大わらわで新しい表紙をつけたり、綴じり糸が切りかかつたのを新しい綴りにしたり、少しでも長く利用してもらうために汗だくで修理に転手古まいというところもある。

いよいよ本格的な秋に入りこれからますます読書数は増加するものと思われているが、最初はどんなものでもよいから読書のくせをつけるために大いに読んでもらいたいものである（写真四山図書館）

製罐分会で對戦

三作支部製罐分会では十五チームを編成して、ソフトボール大会を十二日から開催した。残業のない日を選んで今後優勝戦まで開かれることになつた。

海外トピック

犬がほえると罰金

イタリヤのロメオとジユリエツトの故郷ヴエロナで施行された新条例によると犬やネコの鳴き声を立てさせたものは三カ月の懲役または四十ドル（約一万四千円）の罰金を課せられることになつた。しかし条例はどのようにして鳴き声を立てるのを防ぐかについてはひとことも触れていない。（AP）

最愛の犬猫と心中

米国はニューヨーク州のある片いなかで野犬や野良ネコの保護施設の管理人をしているデクスターレインさん（四二）が朝自宅の犬小屋で愛犬二四、ネコ二四と一緒に死んでいた。奥さんのフララさんあてに遺書があり小屋の中はガスで一杯だつたところからみて、どうやら〝最愛〟の動物たちと無理心中をしたものらしい。それにしても動物たちに少しでも苦しみを与えまいと犬小屋にわざわざガスを引いた処置はいかにも動物愛護主義者らしいと近所の評判になつている。（AP）

きらわれた軍服姿

最近西独で行われた世論調査の結果、軍服姿が西独国民にえらく人気のないことが分つた。「あなたは軍服と平服とどちらがお好き」というこの世論調査、平服が七三%、軍服の方は二三%、意見なし五%という結果が出た。徴兵法も通過し、これからどしどし軍服姿が公衆の面前にお目見得しようとするおりから、政府も頭を痛めている。（ロイター）

逃走した空飛ぶ円盤

北アイルランドのロウプに住むハツチンソンさんという農夫は八日「空飛ぶ円盤」をつかまえたが警察へ持つてくるまでに逃げてしまつたと届出た。ハツチンソンさんの話ではこの円盤は空中から降下してきたもので、明るい赤色をしており卵形で高さ三フィート、一番太いところの直径は十八センチあつた。最初円盤は動かなかつたので、警察に届けようとかかえて運んでいる途中、回転をはじめスルスルと腕の間を抜けて数秒間でどこかえ消えてしまつたとのこと。（ロイター）

西方八方こぼれ話

闘争しない日

九州炭労から教宣部宛に資料調査依頼が来た。

その中に、「組合は一年間にどのくらい闘争しますか（山元争議も含む）という項があつた。松本教宣部員、指折り数えていたが、「仲々多いぞ、こりや、闘争しなかつた日を数えた方が早いワイ」とボヤいていた。

鳩の仇討果さず

中央委員会の名速記手、山口書記が、自宅（寮）へ舞込んだ、山鳩を、手塩にかけ雀子の様に本部の自転車小屋の片隅で飼育していたが、丁度第八回中央委員会から帰つた日、タマタマ本部の残飯整理に当る、野良犬が、金網を破つて、トウトウ大事な山鳩を喰い殺してしまつた。落胆した本人は野良犬をつかまえて、穴を掘り、野球のバットで打ち殺し、埋めると意気まいたが、ある女性の書記が涙を流して止めるので、ついに鳩を埋めたに過ぎなかつた。

モチはモチ屋

本部では毎朝午前八時のサイレンとともに、役員、書記全員が朝礼を行う。当日の行事の報告、連絡事項が終つてから、労働組合運動の前衛として、労働歌を唱い気勢を挙げるのであるが、これまでは教宣部長や教宣部がリーダーに当るが、役員は全員リーダーが出来る様にしなくてはならないと、当直者がリーダーになることを申し合せたが「スクラムを組め」「一、二、三」と軍隊調子でうまくゆかず結局、モチはモチ屋の教宣部に落ちついた。

すみません。ありがとう。この二つ家庭圓満の合言葉